

育みたい資質・能力の在り方について



前回改訂における改善と成果

【資質・能力】

- 前回改訂では、幼児教育（※）において育みたい資質・能力として「知識及び技能の基礎」、「思考力、判断力、表現力等の基礎」、「学びに向かう力、人間性等」が、小学校以降の教育において育む資質・能力と系統的に明記された。

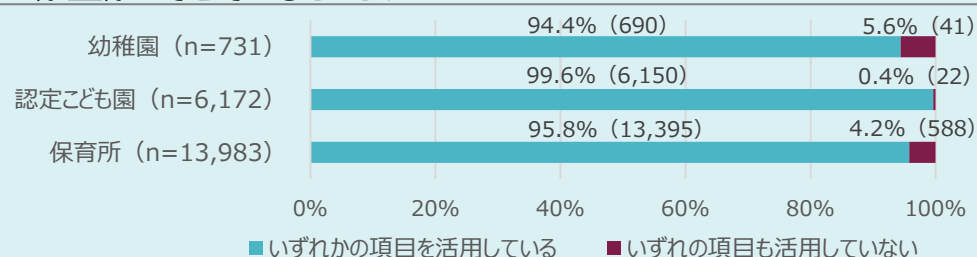
- このことにより、幼稚園、保育所、認定こども園（以下、「幼児教育施設」という。）において、小学校以降の生活や学習につながる資質・能力を育むことが求められていることの認識が高まり指導の改善が図られるとともに、小学校教育との接続を意識した実践が行われるようになってきたなどの成果が上がってきているところ。

※幼児教育：0歳～小学校就学前までの幼児教育施設における教育

【幼児期の終わりまでに育ってほしい姿】

- ねらい及び内容に基づく活動全体を通して、特に5歳児後半に見られるようになる資質・能力が育まれている幼児の具体的な姿として「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が明記された。

- このことにより、指導計画の作成時や指導の過程の振り返り時に活用されるとともに、幼保小の合同研修等において活用され、幼保小接続期の教育に関する相互理解が深まっているなどの成果が上がってきているところ。



※幼稚園の数値は、幼稚園型認定こども園を含む数値。認定こども園の数値は、幼保連携型認定こども園、保育所型認定こども園及び地方裁量型認定こども園の数値。グラフ中の（ ）内は園数

出典：令和6年度幼稚園における教育活動の実施状況調査

令和6年度保育所・認定こども園に関する保育の内容等に関する実態調査



課題と方向性（案）

- ▶ 資質・能力とねらい及び内容、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」との関係を理解して実践につなげていくことが難しいとの指摘（例えば、資質・能力、ねらい及び内容を示している5つの領域、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」として示された10項目は、それぞれ1対1に対応するものではないが、対応関係から理解しようとして混乱が生じている等）

- ▶ 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」については、ほとんどの幼児教育施設で何らかの活用はされているものの、項目名だけでなく、各項目の具体的な記述を活用している割合は、幼稚園で約4～5割程度にとどまっている。

※保育所、認定こども園に関する調査結果はない。

- 資質・能力、ねらい及び内容、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の果たしてきた役割や課題等を踏まえ、その在り方や関係性について、どのような改善が考えられるか。

【現行】

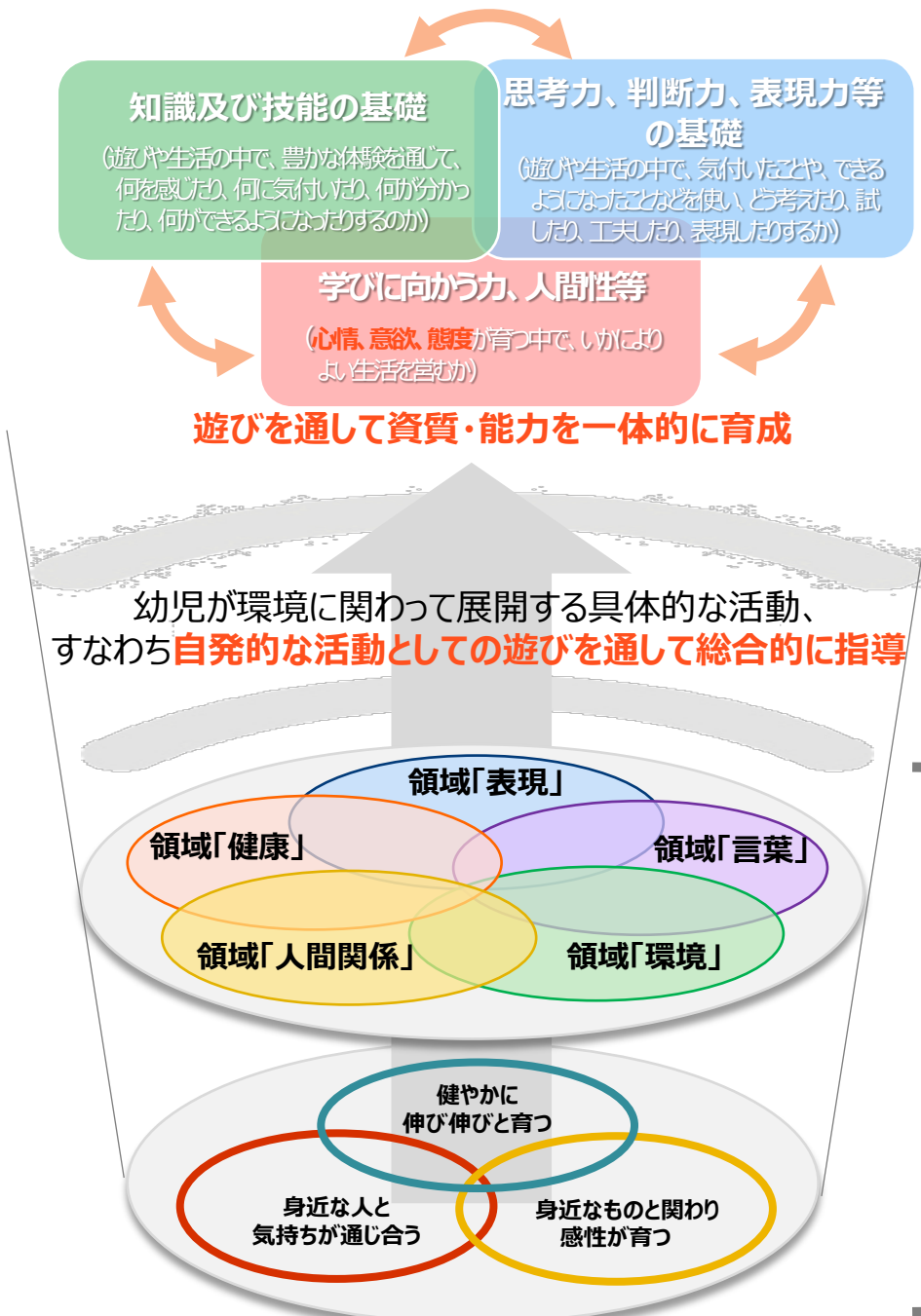
補足イメージ①

- ① 資質・能力は、5領域に示すねらい及び内容に基づく活動全体によって一体的に育まれる。
- ② 資質・能力が育まれている幼児の幼稚園修了時の具体的な姿が「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」である。
＝資質・能力が育っていくと、幼児の姿（「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」等）としてあらわれてくる。

- 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」については、資質・能力が育まれている幼児の姿として、具体的な援助等を行う際の手掛かりとされてきたが、その活用について、今後、どのように改善していくべきか。

資質・能力とねらい及び内容、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の関係のイメージ

補足イメージ①



「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」

- 乳幼児期にふさわしい遊びや生活を積み重ねることにより、**幼児教育において育みたい資質・能力が育まれている幼児の具体的な姿**であり、特に5歳児後半に見られるようになる姿である。

健康な心と体

自立心

協同性

道徳性・規範意識の芽生え

社会生活との関わり

思考力の芽生え

自然との関わり・生命尊重

数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

言葉による伝え合い

豊かな感性と表現

- **到達すべき目標ではないことや、個別に取り出されて指導されるものではないこと**、乳幼児の自発的な活動としての遊びを通して、一人一人の発達の特性に応じて、これらの姿が育っていくものであり、**全ての乳幼児に同じように見られるものではないこと**に留意する必要がある。
- 5歳児に突然見られるようになるものではないため、5歳児だけでなく、**5歳以前から乳幼児が発達していく方向を意識して、それぞれの時期にふさわしい指導を積み重ねていくこと**に留意する必要がある。

「**ねらい**（幼児教育において育みたい資質・能力を乳幼児の生活する姿からとらえたもの）」と「**内容**（ねらいを達成するために、乳幼児が身に付けていくことが望まれるもの）」を**乳幼児の発達の側面**からまとめて**3つの視点及び5つの領域を編成**。

※乳幼児の発達は様々な側面が絡み合って相互に影響を与え合いながら遂げられていくもの。

※幼児教育における「領域」は、それぞれが独立した授業として展開される小学校の教科とは異なるため、領域別に教育課程等を編成したり、特定の活動と結び付けて指導したりするなどの取扱いをしないようにすること。

学びに向かう力、人間性等の今後の整理イメージ（素案）

- 「論点整理」においては、
 - 「学びに向かう力、人間性等」を基本的な概念としては存置しつつ、主要な要素や要素間の関係を構造化して分かりやすく提示すべき、
 - その際、各種調査から我が国の子供たちの課題と考えられる「まず考えること、行動してみる」等を「学びに向かう力、人間性等」の要素と位置付け、下図イメージのとおり、4つの要素の関係として整理する方向で検討すべきとされている。

【今後の整理イメージ】

論点整理p18参照

変化が激しい不確実な社会の中で、学びを通じて自分の人生を舵取りし、社会の中で多様な他者とともに生きる力を育む

学びを方向付ける人間性

思考や行動を自身の豊かな人生やより良い社会に向けていく人間性

※民主主義、共生社会、持続可能な社会、環境、個人と社会のウェルビーイング、アイデンティティ、エージェンシー等と関連

学びの主体的な調整

自分の思考や行動を客観的に把握し認識（メタ認知）しながら学習を自己調整し、思考や行動を修正したり次の思考や行動に繋げたりする力

他者との対話や協働

教師の指導を含む他者からのフィードバック、書籍等との対話、多様な他者との協働・共感や対立の乗り越え等を通じて学びを支える態度

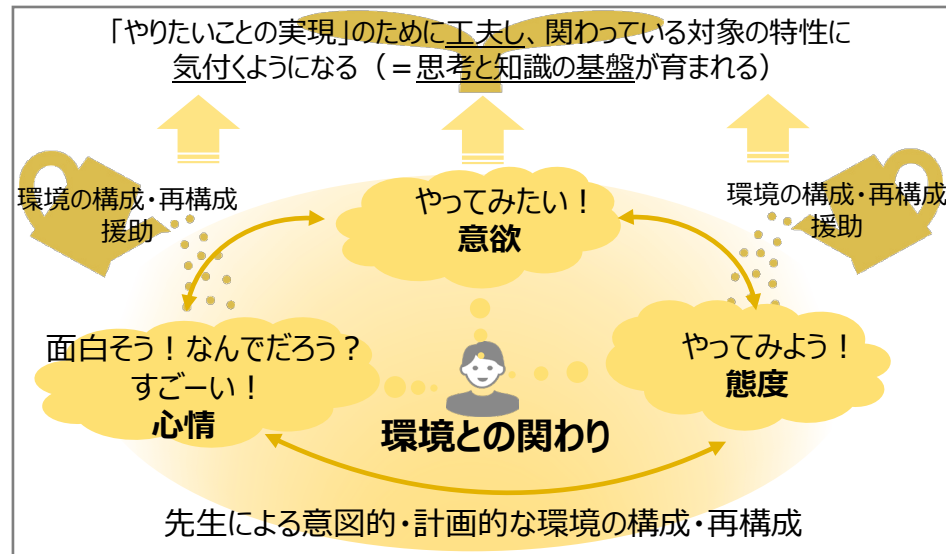
初発の思考や行動を起こす力・好奇心

各教科等で育成された知識及び技能、思考力、判断力、表現力等を土台として、初発的な思考や行動を起こす力

※創造性等と関連

※「初発の思考や行動を起こす力」と、「学びの主体的な調整」「他者との対話や協働」との往還を通じ、粘り強く継続的に思考・行動する経験が繰り返され、「学びに向かう力、人間性等」が育まれる

- 環境を通して行う教育を基本とする幼児教育の特質を踏まえ、特に「学びの主体的な調整」や「初発の思考や行動を起こす力・好奇心」などの要素について、幼児教育としてどのように捉えられるか。また、その際、従来より幼児教育が重視してきた「心情、意欲、態度」（下図参照）が育つ中で、「学びに向かう力、人間性等」の育成をどのように捉えられるか。



- ◆下部の各要素については、乳幼児の発達を踏まえ、幼児教育としての説明を、幼児期の後半をイメージして検討

初発の思考や行動を起こす力・好奇心

自分に自信をもち、様々な事物や現象、他者の姿などに興味や関心をもったり憧れを抱いたりして、自ら積極的に関わろうとする力

他者との対話や協働

先生や友達などの他者に親しみ、信頼し、他者との関わりを通して多様な感情を体験したり互いの考えに触れたり葛藤を乗り越えたりしながら、目標を共有して協同しようとする力

学び(遊び)の主体的な調整

遊びながら、実現したいことを願い、どのようにしたらいいか見通し、試したり工夫したりして振り返り、難しいことが生じても粘り強く取り組んで、更なる試行錯誤や工夫に繋げる力

參考資料

(1) 健康な心と体

幼稚園生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。

(2) 自立心

身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならぬことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。

(3) 協同性

友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、実感をもってやり遂げるようになる。

(4) 道徳性・規範意識の芽生え

友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。

(5) 社会生活との関わり

家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気付き、相手の気持ちを考え、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。また、幼稚園内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりなどを意識するようになる。

(6) 思考力の芽生え

身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取り、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気付き、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにようになる。

(7) 自然との関わり・生命尊重

自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探究心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。

また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気付き、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にすることをもち関わるようになる。

(8) 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。

(9) 言葉による伝え合い

先生や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。

(10) 豊かな感性と表現

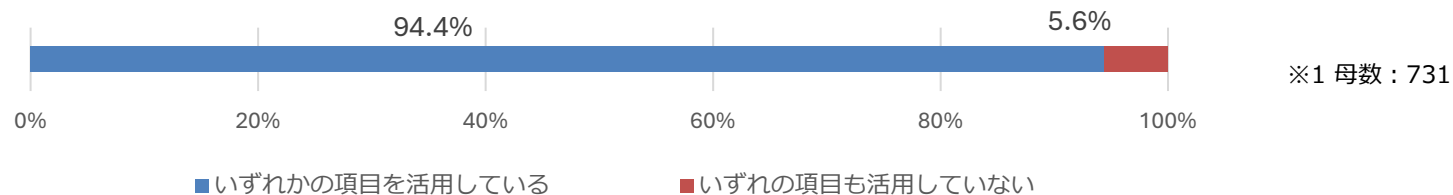
心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気付き、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の活用状況（幼稚園）

出典：令和6年度幼稚園における教育活動の実施状況調査

幼稚園

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の活用の有無



「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」をどのように活用しているか。

